

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルチャオ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 13日		～ 令和 8年 1月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 6日		～ 令和 8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別担当制であること	利用者の気持ちの動きや遊びの展開などを丁寧に検証・考察しながらかわりを持ち、支援に継続性を持たせていく。	支援の振り返りを丁寧にやっていく。 職員の資質の向上⇒外部研修の受講、ミーティング
2	母子同室・親子通園であること	子どもへの支援だけでなく、保護者への支援も大事にしている。家庭や園での様子の聞き取り、困り事へのアドバイスをできるだけその場で行う。	保護者との信頼関係をしっかり築くために、まずは保護者の気持ちをしっかり受け止める、傾聴に徹する。 困り事への的確なアドバイスができるようになるために研鑽を積む。
3	保護者のつながりを作ることができる	フリー茶話会の実施。今年度は4回実施。 修了生の保護者や知人など、現在通室している保護者だけに限らないで参加を促す。	来年度も継続して実施していくことで、保護者同士のつながりを広げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援中に、親側から相談しにくいところがある	子どもと一緒に遊びながらの支援のため、保護者の話をじっくり聞けないことがある。	サポートに入る職員を作ることも考えていく。 遊びと相談のバランスを考えて、時間を分けていく。
2	支援の中で提供される遊びの幅が限られている	子どもの好きな遊びの中でのかわりを支援の中心にしているため、興味を示したおもちゃでの遊びを提供することが多い。	子どもの発達段階を見ながら、新しい遊びを試していく時間も作っていく。 職員間でアイデアを出し合い、試していく。
3			